

食品安全衛生課 大貫典子 食品衛生企画専門員

平成6年度入庁。
内陸食肉衛生検査所検査指導課検査主査、内陸食肉検査所置賜支所検査主査、村山総合支庁生活衛生課乳肉衛生管理主査、健康福祉企画課業務・感染症対策室感染症対策専門員を経て、平成31年度から現職。

桜咲く東京から雪ふる山形へ！
獣医師として食の安全や感染症の対応など今まで幅広い業務をされてきた大貫専門員に、公務員として働く獣医師の魅力や仕事と家庭の両立のコツなどをうかがいました。



東京から山形に来てみて…

私は東京出身で、大学卒業後、夫の出身地である山形県に就職しました。

獣医師は、公務員の他、ペットなどの小動物を診察する動物病院、牛・豚・馬など家畜の診察を行う産業動物診療所、実験動物を扱う製薬会社など幅広い分野で活躍しています。私が就職した当時、周りには獣医師で公務員を目指す人は少なかったように思います。正直、私自身も急な方向転換をして、公務員獣医師の仕事をきちんと理解しないまま就職しました。

就職して初めての配属先は新庄の保健所。3月に桜が咲いている東京から雪が残っている新庄に引っ越し、生活環境もガラッと変わりました。

配属されて最初の仕事は飲食店の監視等の食品衛生業務。獣医以外の職種でも従事できる仕事だったため、「想像していた獣医の仕事とは違うな」と思っていました。

また、山形の生活に慣れるのにも苦勞しました。最も大きな壁を感じたのは言葉です。電話を取っても何を話されているかがかわからず、上司にも何回も聞き返し、だんだん言葉を覚える日々でした。

大変ではありましたが、とてもいい上司や同僚と働く中で、公務員のやりがいや山形の楽しみ方（お酒、食べ物等々）を教えてもらい、2年間で仕事も山形（新庄）

弁もマスターすることができました。

印象に残った仕事

◎食の安全を守るということ

保健所の仕事を行う中で、患者が500人を超える大規模な食中毒事案を経験しました。

食中毒は、毎日の生活に欠かせない食によって体調を崩してしまうだけでなく、時には人が亡くなることもあります。担当が少ない中での対応は大変でしたが、それ以上に食中毒を発生させないための食品検査や衛生講習会、営業施設への監視など日々の業務の重要性を改めて認識しました。

◎技術を磨き仕事に活かす

平成16年に内陸食肉衛生検査所に配属されました。

牛肉や豚肉は1頭1頭すべて検査を行い、検査に合格したもののみ食肉として販売することができます。この安全確認や検査は獣医師が行っているんです。

検査技術は日々進歩しており、食の安全を守るためには、常に自分の知識と技術をアップデートする必要があります。

私はこの所属で、病原体である細菌の検査技術を学ぶため、1カ月間大学の研修に参加させてもらいました。

社会人になってから大学の施設で新しいことを学ぶ機会をもらったのは、とてもありがたかったです。

新たに学んだことが仕事に活かせることを実感でき、とてもやりがいのある職場でした。

仕事やプライベートでの心かけ

◎一度立ち止まって全体を見る

仕事を始めるときは、一旦立ち止まって全体を客観的に見てから取りかかるように心がけています。

とはいえ、つい型どおり、過去の手順通りに仕事をこなすことが…後ろを振り向くといろいろと反省すべき点やもっと改善できたと思えることが浮かんできます。

自分の仕事だけではなく、部下の仕事も含め、もっと全体の中で重要なポイントを押さえられるようにしていきたいです。

◎話しかけやすい雰囲気や風通しを良く

職場では、自分から積極的に声をかけて、コミュニケーションをとるようにしています。

部下が悩んでいることや困っていることがあれば、サポートしてあげたいですし、もっと挑戦できそうな部分があれば、応援してあげたい。

県庁は同じ担当にいても仕事を個々に持っていて、黙って仕事をしてしまうと、隣の人の仕事の進捗状況すらわからないこともあります。

余裕がなくて対応できないこともあります。なるべく相談しやすい雰囲気を心がけています。

今の所属は、それぞれがしっかり自分の仕事をしながら助け合い、とてもいい雰囲気で仕事ができていると思います。

仕事で壁につきあたった場合の対応

◎「人を動かす」ということ

平成28年に健康福祉企画課の業務感染症対策室の感染症担当に配属されました。獣医が？と思うかもしれませんが、人の感染症対策を担当するのは全国的にも珍しいのではないんですよ。

そのとき山形県で7年ぶりの麻疹（はしか）の流行を経験しました。感染症の対応は、患者に接触した方一人ひとりへの健康調査や外出を避けるなどの注意喚起、市町村への情報提供や関係機関との検討など対応は多岐に

わたります。

麻疹の流行が広がるにつれ、自分の仕事もどんどん増えているのに一人で仕事を抱え込んでしまい、パンクしそうになりました。

その時上司から言われた「他の人を動かすことを覚える」という言葉が印象に残っています。

どこの部署でもそうですが、困難な時こそチームで対応することが重要になってきます。

この時も、同じ課で違う担当の職員や保健所職員が協力してくれたのはもちろん、県職員だけではなく、病院や医師会、医薬品卸業協会、そして国立感染症研究所など様々な方に協力いただき、終息まで対応することができました。

ひとりで抱え込まず、できる人を見つけてお願いしていく、特に危機発生時は全体で対応するというのはこれからも心がけていきたいです。



【食品適正表示推進者養成講習】

プライベートの過ごし方

子どもは3姉妹で、3人ともスポ少のバレーボールに所属していました。

監督がどうしても来ることができない日もあるので、お手伝いのつもりで「指導員」の資格をとり、子どもが卒業した今も指導員として関わっています。

子どもの成長にとって、親以外の大人と関わる機会を持つというのはとても大切なことです。

今後も微力ながら、子どもたちの成長の手助けをしていければと思っています。



【休日は子ども達にバレーボールを指導】

仕事と家庭の両立

男性もそうだと思いますが、仕事にやりがいを覚え、面白くなってくる中堅の時期と子育てが忙しくなる時期が重なることが多いのかもしれませんが。

私が大学へ研修に行かせてもらった時も、子どもがまだ小さいころでした。

一人目の出産を機に、夫の両親と同居を始めたので、ご飯の準備やお迎え等、子育てについては、義理の父母に協力してもらいました。ほぼ義父母に育ててもらったといってもいいくらいかもしれません(笑)。お義父さんお義母さんには本当に感謝しています。家族の協力がなければこんなに仕事に打ち込むことはできませんでした。

限られた時間の中でしたが、小さいときは寝る前に絵本を読んだり、小学校のときはスポ少に通ったり、できる限り子どもと一緒にいられる時間をつくり、子どもと接することを心がけていました。

結婚して働きながら子育てもして、家事もしていると時間がいくらあっても足りませんが、公務員は産前産後、育児休暇、子供看護休暇などの休暇が充実しているので、制度を上手く活用すれば両立しやすいと思います。個人的には親との同居もおススメです。

管理職の魅力ややりがい

マネジメントや人の能力を活かす力を持てればとてもやりがいのあるポジションだと思います。

大きな決断が必要なときに、「自分の判断が間違っていないか」と不安になるとは思いますが、きちんと判断できる材料を集めて、とことんディスカッションできるようなチーム(所属)が理想です。

人の上に立ちたいとは思いませんでしたが、自分が置かれたポジションで自分なりに一生懸命やっていけばいいのかなと思えるようになりました。

何事も、経験しないと「怖い」と思ってしまうのですが、飛び込んでみれば意外と何とかなるものだと思っています。

今から山形県庁を受けたいと思う方にメッセージ

東京から移り住んで26年。今は山形で過ごした期間のほうが長くなりました。山形はおいしい食べ物や豊かな自然があり、人も温かく生活しやすいいいところです。

獣医師は様々な活躍の場がありますが、特に公務員は食の安全や感染症対策など重要な分野に関われますし、働きながら自己研鑽できる機会もあります。

公務員でも獣医師としてのやりがいを感じられると思いますので、是非山形県に来ていただいて一緒に働いてもらいたいですね。

獣医師として技術職の専門性を磨きながら仕事に打ち込む姿は、どの職種でも学ぶべき姿勢ではないでしょうか。

